

留学報告書 II (留学生)

塾内在籍高校・学年(派遣時)	湘南藤沢高等部 5年
留学先高校名	The Hotchkiss School
留学期間	2018年 9月から 2019年 6月まで

<入力は日本語/英語のどちらでも構いません>

留学を志した時期はいつ頃ですか。

中学二年生の夏に参加した受験説明会で派遣留学制度について知り、入学することができたら是非チャレンジしてみたいと思いました。合格した時点で派遣留学が具体的な目標となり、すぐにTOEFLやSSAT受験の準備を始めました。

留学を振り返って

愛校心溢れる先生方や生徒達が、Hotchkissをより良い場所にしようと常に努力し、質の高い学びや気付きが得られることがHotchkissの良さだと感じています。それは、先生方や生徒達の能動的な学校づくりへの関わりからも強く感じとることができました。毎週開催されるStuFacでは、StudentとFacultyが任意で集まり様々な事柄についての話し合いが持たれ、その意見交換の内容を生徒会長が直接校長に伝えるシステムも確立されていました。アドミニストレーションや先生方が絶対的な存在ではなく、生徒達も学校作りに積極的に関わるという名門ボーディングスクールの在り方に、大いに刺激を受けました。温かいコミュニティづくりにも力を入れていて、休日には誰でも参加できるアクティビティなどが多く開かれ、交流を深める場となっていました。

森に囲まれた自然豊かな環境で生活していると、Hotchkissが自分の世界の全てになってしまいがちですが、一ヶ月に一回は必ず外部からゲストが招かれ、レクチャー、ワークショップ、ディスカッションなどに参加して見聞を広める機会に恵まれました。華々しく活躍する人物から失敗や挫折を乗り越えた人物まで、幅広いゲスト達の体験談を通じ、多くのことを学び考えました。

特徴的な課外活動について教えてください。

FFEAT - 農園活動 (春シーズン) :

Hotchkissの広大なキャンパスの一部は、ダイニングホールでの食材を栽培・飼育するためのファームになっており、そこでボランティアの農園活動をしました。FEATではコミュニティづくりを最も大切なものと位置づけ、常にコミュニティの一員であることを意識し、3人の先生方と18人の仲間達と協力しながら作業をしていました。家畜の成長を見守る喜び、育てた野菜を収穫する喜び、その野菜が次の日のサラダに使われているのを発見して食べる喜び、育てる苦勞を体験したことで喜びが何倍にも膨らみました。自分の勉強を自分自身のためにする学校での生活とは違って、みんながみんなのために頑張る農園活動は、心が満たされるかけがえのない体験となりました。

St. Luke's Society (ボランティア活動) :

ノブレス・オブリージュの考えに立ち、恵まれた境遇にあるホチキス生は、身近な人々の役に立とうという精神で近隣のローカルコミュニティのためのボランティア活動を主にしています。私はSoup Kitchenという活動に参加し、近くの町で支援が必要な人々に夕食を提供していました。Hotchkissのダイニングホールが作った料理をミニバスで町まで運び、宗教関連の建物の一部を使って、訪れた人々にレストラン形式で食事を提供します。地域の人々と会話ができる場でもあり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

アドバイザーとの面会がありましたか? どのような内容でしたか?

週に一回アドバイザー・グループで集まる中で、アドバイザーとはとてもよい信頼関係を築くことができました。入学時には、「1年しかいないということは、逆に良い面もある。」と目標を定めて充実した一年間を過ごせるよう、選択授業や課外活動選びの相談にのってくれました。一ヶ月に一回、アドバイザー宅で開催されるデザート・パーティーでは、アドバイザー・グループのメンバーとの交流をより深めることができました。後期が始まる時には、前期の成績を踏まえて後期の過ごし方について丁寧にアドバイスしてくれ、それが学年末の成績向上につながりました。国際プログラム長でもあるアドバイザーは、文化的な違いにも考慮しながら様々な場面で親身にサポートしてくれました。

授業について

Hotchkiss では1クラスの人数が少なく、私の取っていた授業は7人から17人という規模で行われていました。授業スタイルについては、文系科目はディスカッションが主で、先生も生徒と同じテーブルを囲んで授業を進めていくことが多かったです。理系科目も、先生が生徒に教えるのではなく、生徒同士が教え合ったり分からないことを話し合ったりすることが多かったです。

(履修授業を一部抜粋)

生命倫理学 (Biomedical/Biotechnological Ethics) -

人の遺伝子操作、妊娠中絶、安楽死などについてディスカッションをしました。論文に書かれている内容が直観的には納得できないものであっても、拒絶せずにできる限りその主張の理解を試み、冷静に分析して論理的で根拠のあるディスカッションをするというアプローチを学びました。

LGBTQ アメリカ史 (LGBTQ US History) -

性的マイノリティの視点からアメリカ史を学んでいく授業です。宿題としてテキストを読み、授業でディスカッションをし、新しい学びを得るという授業スタイルでした。最終プロジェクトでは Hotchkiss の卒業生で LGBTQ としての体験がある方にインタビューする機会もあり、アメリカならではの学びが沢山詰まっていました。

英語 (AP English -American Literature-) -

アメリカ文学を読み、それについて歴史的な背景も含めて深く掘り下げ、ディスカッションを行う授業でした。多種多様な本を読み、文学を通してアメリカという国が浮かび上がってきたような気がします。

物理 (AP Physics C Mechanics) -

微積分ベースの物理で、大学レベルの学習を行う最上級コースでした。前期は宿題(予習)として予めテキストを読んだりビデオを視聴したりすることが求められ、授業内ではクラス全員で話し合いながら問題を解いていくという進め方でしたが、後期は授業内で先生が単元の説明をすることが増え、宿題で問題を解き授業で問題の答え合わせをするというスタイルに変わりました。

オーケストラ (The Hotchkiss Orchestra) -

授業の一環として管弦楽オーケストラに所属しました。年に六回の発表の場があり、とても早いペースでたくさん曲を仕上げていきました。今年度は Hotchkiss 初のプロオーケストラとの提携演奏の機会があり、光栄なことに後期にはそのメンバーに選ばれ、スペインから招かれたピアニストのコンサートに、オーケストラの一員として参加するという大変貴重な経験をさせてもらいました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

新しい環境に身を置くと、アイデンティティが揺らぐこともあると思います。新たな経験を取り込むことで起こる自分の中の混乱をポジティブに受けとめ、自分と向き合う有意義な時間へと変えていってください。新たな世界で奮闘していくうちに、きっと道は拓けていきます。

以上

